



第 2 章

氣 象



10 月別平均気温 (C°) (彦根地方気象台)

Table with columns for observation station, year (昭和34年), and months 1-12. Rows include stations like 彦木竹今大, 多水八政中, etc.

12 最高気温の極 (C°) (彦根地方気象台)

Table with columns for observation station, year (昭和30-34年), and date/temperature. Rows include stations like 彦木竹今大, 多水八政中, etc.

注 30年 吉瀬 (8月1日, 同10日) 32年 土山 (8月1日) 34年 今津 (8月2日, 同5日) 中洲 (8月3日) はそれぞれ最高気温の極を示した。

11 月別積算降水量 (単位mm) (彦根地方気象台)

Table with columns for observation station, year (昭和34年), and months 1-12. Rows include stations like 彦木竹今大, 多水八政中, etc.

13 最低気温の極 (C°) (彦根地方気象台)

Table with columns for observation station, year (昭和30-34年), and date/temperature. Rows include stations like 彦木竹今大, 多水八政中, etc.

注 30年 吉瀬 (1月28日) 32年 竹生島 (2月12日) 北小松 (2月12日) 堅田 (3月13日) 34年 市場 (1月15日) はそれぞれ最低気温の極を示した。

14 快晴日数 (彦根地方気象台)

Table with 14 columns (months) and 14 rows (locations). Data includes counts for locations like 彦春木竹今, 根照本島津, etc.

注 全雲量が2以下の日数

15 晴天日数 (彦根地方気象台)

Table with 14 columns (months) and 14 rows (locations). Data includes counts for locations like 彦春木竹今, 根照本島津, etc.

注 全雲量が3~7の日数

16 曇天日数 (彦根地方気象台)

Table with 14 columns (months) and 14 rows (locations). Data includes counts for locations like 彦春木竹今, 根照本島津, etc.

注 全雲量が8以上の日数

17 雨雪日数 (彦根地方気象台)

Table with 14 columns (months) and 14 rows (locations). Data includes counts for locations like 彦春木竹今, 根照本島津, etc.

注 1日の雨量が0.1mm以上の日数で従つて雪日数を含む。

18 季 節 表 (彦根地方気象台)

Table with columns for observation location (観測所), season (終日, 初日), and frost/snow/ice dates (霜, 雪, 結氷).

19 月別日照時数および蒸発量 (彦根地方気象台)

Table with columns for month (月別), sunshine hours (日照時数), and evaporation (蒸発量) for each month from 1953 to 1954.

20 月 別 最 多 風 向 (9時) (彦根地方気象台)

Table showing the most frequent wind direction (最多風向) for each month from 1953 to 1954 across various locations.

21 滋賀県で感じた主な地震 (彦根地方気象台)

Table listing major earthquakes felt in Shiga Prefecture, including date, time, location, magnitude, and intensity.

### 22 地 震 回 数 (彦根地方気象台)

区 分	昭和34年 全 年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
		総 数	326	42	19	40	28	34	31	21	25	25	19
有 感	2	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—
無 感	324	42	19	40	28	34	31	21	25	24	19	18	23

### 23 琵琶湖沿岸水温 (C°) (彦根) (水産試験所)

全 年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
16.8	6.7	7.8	8.8	12.0	16.7	21.4	26.5	28.0	26.5	20.5	15.8	11.8

### 24 台 風 時 気 象 表 (彦根) (彦根地方気象台)

台 風	最低気圧		最大風速			瞬間最大風速			雨 量		
	mb	日時分	m/sec	風 向	日時分	m/sec	風 向	日時分	日時迄	mm	継 続 時 間
8月7号	995.4	14. 8.20	12.9	N	14. 2.20	16.2	WNW	14. 3.28	14. 9	280.0	24
9月14号	1,001.8	17.20.55	15.7	SE	17.19.50	25.1	SE	17.19.33	18. 5	0.4	12
9月15号	949.5	26.21.25	21.9	ESE	26.20.20	36.0	ESE	26.20.23	27.10	321.3	54
10月16号	1,002.2	7.12.20	14.5	N	7.20.30	18.1	N	7.20.28	7.16	19.0	20

### 25 台 風

#### 1. 台風7号 (8月12日~14日)

台風7号は低圧部として本邦遙か南東海上にあつたが、12日10時硫黄島南東方450kmで995mbとなつて台風7号と命名された。この台風はその後急速に北西に進み、更に北に転じて、14日早朝静岡県富士川河口に上陸し、静岡、山梨、長野、新潟の各県を荒して北北西に進み、10時頃日本海に抜けた。この台風は規模は小さかつたがしつかりした眼をもつており、引き締つた勢力の強い台風で通路に当つた、静岡、山梨、長野の各県では風雨ともに大きな被害をもたらした。しかし、規模が小さいため中心から少し離れた地域では風の被害はなく、本県では台風が駿河湾に向け

て北上する14日未明から朝方にかけて台風による暖気の吹き込みの雨が再び強く降つて、全般に前日来の雨量を更に倍加させた。

本県では低圧部が四国南方海上にある12日朝から雨模様の天気となり、次第に悪化して午後には本降りとなつた。この雨は特に伊勢湾から入つて来たもので、前述の暖気の侵入によるものであつた。午後遅く上層寒気の到来と共に大気は不安定化し、この解消のために雷を伴つた俄雨性の強雨となり、これが先ず15時頃から鈴鹿山系に始まつて君ヶ畑では、18~20時には1時間雨量45mmに達し、21時頃まで続いた。

少し遅れて伊吹山方面にも移つて同様の強雨を降らし、春照では1時間雨量50mm以上を観測した。特に、この雨は天野川上流域の集中豪雨ととも云うべきで、雨量は河川の排水能力をこえ各所で氾濫、浸水、堤防決壊が起つた。約3時間この強雨が續いて22時頃漸く小止みとなり小康状態を保つたが、翌朝3時~5時にかけて第2の強雨が再び伊吹山系に降り、更に、朝方8時~11時にかけて第3の一層強い集中豪雨があり、1時間最大春照では61mm、吉槻では67.3mm、伊吹山では52.5mmと云う記録破りの豪雨となつて、このため前夜来の各所の被害は一層増大し土砂崩れ等も続出した。

その後雨は西部および南部に移り、第4の強雨は安曇川上・中流域で13日15時から7~8時間に亘つておこり、この方面にも水害をもたらした、更に第5の強雨は13日夜半に県南部から始まつて鈴鹿山系を北上し県北東部へ移つて、14日8時頃まで続き、東部の水害にとどめをさした恰好となつた。このようにして県下全般に降つた雨は平地で200~300mm、東部山岳では600mmに達し、このため死傷者、行方不明数名を始め、県当局がまとめた物的被害額は30億円以上に達し、各交通機関は大混乱をきたし、道路不通箇所は勿論、東海道本線は14日午後になつて漸く復旧した。

#### 2. 台風14号 (9月17日)

12日頃グアム島附近にあつた熱帯性低気圧は12日9時995mbになつて台風14号となつた。この台風は発達しながら比較的急速に西北西に進み、15日9時には宮古島南東250kmに達し、905mbまでに深まりA級台風となつた。この頃より北西乃至北北西に進路を変え、15日夜宮古島附近を通過して、その後、東支那海南部から北北東に向かい17日早朝から夕刻にかけて九州西方海上から朝鮮南東端をかすめて日本海に進んだ。

この台風はA級に属するかなり勢力の強い台風で直接進路に当たれば大きな被害の予想されたが、幸い本県はこの難を免れた。しかし、朝鮮海峽を北東に進む17日午後から夜にかけて南東の風が稍強く、彦根では瞬間風速25.1m/secを観測したが、南部では大して強い風もなく、雨も比良山系で30mm、南部東部の山添では10mm以下の雨量があつたのみで、風のために稲が倒伏した程度で、他に被害はなかつた。

#### 3. 台風15号 (9月26日~27日)

22日マリアナ群島にあつた熱帯性低気圧は、同日サイパン島北方200kmで970mbを記録して、台風15号となつた。24日から25日にかけて硫黄島の南西洋上を北西に進む頃には最も発達して、中心示度900mb、中心附近の最大風速70m/secという猛烈な台風となつた。その後、次第に北西から北へ進み、紀伊半島を目指して北上、26日18時頃紀伊半島潮岬に上陸した。その後、紀伊半島を縦断、奈良県から滋賀県南部に入り、鈴鹿山系西側を北上し、伊吹山脈をこえて岐阜北部から富山に入り、日本海沿いを北北東に進み、北海道東方海上に抜けた。

台風15号は中心附近の勢力、暴風雨圏の規模ともに昭和9年の室戸台風と匹敵する超大型台風で、潮岬に上陸したときの気圧は929mbで、これは室戸(912mb)沈崎(917mb)につく観測史上第3番目の記録であつた。

この猛烈な台風が上陸後も大して衰えることなく本土中央部を縦断し、本土の殆ど全部を暴風雨圏に巻きこんで、風雨とも各地に大被害をもたらした、死者、行方不明は5,000人におよび、倒壊、流失家屋は10万戸をこえるなど、台

風史上最大のまさに空前の大惨害となつた。特に、この進路すぐ東側になつた伊勢湾沿岸の高潮による被害は非常に大きく、特に伊勢湾台風と名づけられた。

本県では、25日から26日にかけて台風の影響も加わり雨勢は次第に激しくなり、26日午後には台風の接近と共に風が吹き始め、次第に南東の風雨が強くなり、平均風速20m/sec以上、瞬間風速30m/sec以上の暴風雨となり、建造物の倒壊、樹木の倒伏が続出した。雨量については特に鈴鹿山系では豪雨となり、君ヶ畑では15時～21時までに300mm以上、政所では260mmに及ぶ雨が降り、湖東の各河川は氾濫をはじめ、次いで伊吹山系の天野川も台風7号の被害を更に大きくした。台風の中心は20時すぎ本県南部に入り、鈴鹿山系の西側を北上し22時頃岐阜県北部に抜けた。彦根地方気象台の記録した949.5mbは当気象台はじまつて以来の最低気圧を記録した。

#### 4. 台風16号 (10月7日)

3日18時ルソン島東方海上で998mbを示して台風16号となつた。この台風はこの頃北東方オホーツク海に伸びる気圧の谷に沿つて北東から更に北北東に進み、6日9時には沖縄附近に達した。6日夜半には九州南端まで北上した。その後、北東に進み四国南部をかすめて7日12時から14時にかけて近畿地方中部を通つて東海道に向かい、7日夜半前関東地方から三陸東方海上に向かつて抜けた。

この台風が近畿地方を通過する頃には温帯低気圧化し、勢力も1,000mbに衰えて中心もいくつかに分裂していた。従つて、本県では風雨共に大したことはなく、7日早朝5時頃から一時南東の瞬間風速17～18m/secの強風が、東部山沿いの処々で吹き、そのうちの主低気圧が大阪湾から三重県に向かつて通過する13時頃から14時過ぎにかけて北西の吹き返しが12～13m/sec吹き、約30分遅れて並雨が2時間程降り続き、1時稍強い風雨となつた。この風雨は台風の渦そのものよりも寒冷前線の通過によるものと考えられ、間もなく風雨ともに止んで平常に戻つた。

本県では雨量も少なく被害は殆どなかつた。